

競技上の注意・連絡

審判長 石田 友博

本大会は近畿中学校体育連盟卓球部規定の事項のほかは、現行の日本卓球ルールを適用して行います。ただし、審判長の判断により容認される項目もあります。

1. マッチと大会使用球

1 ゲーム 11 ポイント制の 5 ゲームマッチで行います。大会使用球は、J T T A 公認プラスチック球:VICTAS 社製 40 mm ホワイト球のみとします。

2. 競技用服装

競技用服装は J T T A が公認した半袖シャツ、ショーツまたはスコートとします。背中には選手名・府県名・学校名（チーム名）が明記されたゼッケンをつけてください。競技用服装の主たる色はボールの色と明らかに違う色でなければならないので、白色を基調とするものは着用できません。卓球の公認用具指定業者を除いて、在籍している中学校名以外の文字等がある競技用服装は着用できません。外に出すタイプを除いて、半袖シャツはショーツまたはスコートの中に入れて競技してください。なお団体戦に出場するチームの全競技者は、同じ服装で競技してください。ただし、ショーツまたはスコートは同色のものであれば、多少のデザインの違いは認めますが、事前に審判長まで申し出るようにしてください。

3. ラケットとラバー

ラケットは J T T A が公認したもの、ラバーは I T T F または J T T A が公認したものでなければなりません。ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出ないように覆うものとします。J T T A が未公認のラケットを使用する場合は、「ラケット使用許可申請書」を審判長に提出し、許可を受けてから使用してください。

4. ラケットコントロール

指定された場所以外では、接着剤の使用はできません。

(1) ラバーをラケット本体に貼る場合、揮発性有機溶剤を含んでいないものとして J T T A が公認した※接着剤のみを用いてください。

※ J T T A 公認接着剤リスト（ホームページ記載の最新版）参照

(2) 本大会において、無作為に選んだ競技者に対して、ラケット検査を実施する場合があります。

5. 競技方法

団体戦は、3 チームずつのグループに分けた予選リーグと、各グループの 1 位と 2 位のチームによる決勝トーナメントで行います。いずれも 3 点先取法で行います。個人戦は、トーナメント方式で行います。さらに、ベスト 16 の選手による全国大会代表決定戦を行います。

6. ベンチ入り

団体戦でベンチ入りできるのは、登録されている選手 8 名以内と監督 1 名・当該校の校長が認めただバイザー（コーチ）1 名だけです。なお、個人戦においては監督・コーチ・チームメイトのうち 1 名のみが助言者としてベンチ入りできます。ただし、競技者は競技領域から離れてはいけなないので、同時にアドバイザーをする場合はアドバイザーが移動してください。ただし空席時に別のアドバイザーが座ることは禁止します。

7. 応援

ベンチでの応援は節度のあるものとし、相手に不快感を与えることのないようにしてください。
また、席を立っての応援は禁止します。

8. アドバイス

競技者または組は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間のみアドバイスを受けることができます。団体戦においては、ベンチにいることを認められた誰からでも、個人戦においては、監督・アドバイザー・チームメイトのうち1人からアドバイスを受けることができます。ベンチ内でのスマートフォンやタブレット、電子機器の使用による外部からアドバイスは禁止です。疑わしいと思われる場面では、確認させていただくこともあります。

9. タイムアウト

競技者または組は、個人戦の1マッチ（団体戦においては個々のマッチ）において、1分以内の“タイムアウト”を1回要求することができます。団体戦において複数台を使用する場合は、アドバイザーもタイムアウトを要求することができます。また、タイムアウトは、ゲーム中でのラリーとラリーの間でのみ要求することができます。

10. 促進ルール

ゲーム開始後10分経過した場合は、促進ルールが適用されます。また、両方の競技者または組から要請があった時には、いつでも促進ルールが適用されます。ただし、両方の競技者または組のポイントスコアの合計が少なくとも18ポイントに達した場合には、促進ルールは適用されません。

11. 試合開始前の練習

競技者はマッチ開始直前に2分間を限度として、そのマッチで使用するテーブルで練習できます。

12. サービス

サービスに関しては厳しく判定します。サービスが基本ルールの要件を満たしているかどうかを、審判員が確信できるようにサービスを行うことは、競技者の責任です。審判員が競技者のサービスの正当性について確信が持てない場合、それがマッチにおいて初めてであれば、競技を中断してサーバーにその旨注意します。その後、その競技者またはダブルスのパートナーが正規のサービスかどうか明らかでないサービスを行った場合、そのサービスは不正なサービスと判定されます。なお、明らかに正規のサービスでない場合は、最初から不正なサービスと判定されます。

13. 抗議

審判長に抗議することができるのは、審判員のルール解釈に関するものとし、事実の判定に対してはできません。個人戦での抗議は、問題が生じた場面に参加していた競技者のみ、団体戦での抗議は、問題が生じたマッチに参加していたチームの監督のみが行うことができます。